

2021年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年3月9日

上場会社名 株式会社アースインフィニティ 上場取引所 東
 コード番号 7692 URL https://www.earth-infinity.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 濱田 幸一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 浅原 香織 (TEL) 06-4797-7522
 四半期報告書提出予定日 2021年3月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年7月期第2四半期の業績 (2020年8月1日~2021年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期第2四半期	1,951	—	54	—	57	—	36	—
2020年7月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2021年7月期第2四半期	12.29		—					
2020年7月期第2四半期	—		—					

(注) 当社は、2020年7月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2020年7月期第2四半期の数値及び2021年7月期第2四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年7月期第2四半期	1,632	905	55.5
2020年7月期	1,460	685	46.9

(参考) 自己資本 2021年7月期第2四半期 905百万円 2020年7月期 685百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年7月期	—	—	—	—	—
2021年7月期	—	—	—	—	—
2021年7月期(予想)	—	—	—	43.00	43.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年7月期の業績予想 (2020年8月1日~2021年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,001	9.2	620	13.9	617	12.7	422	12.7	139.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2021年7月期2Q	3,059,200株	2020年7月期	2,995,500株
2021年7月期2Q	21株	2020年7月期	37,200株
2021年7月期2Q	3,009,538株	2020年7月期2Q	—株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

当社は、2020年7月期第2四半期について、四半期財務諸表を作成していないため、2020年7月期第2四半期の期中平均株式数については、記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予測の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済活動の抑制により、厳しい状況が続いております。政府の各種政策による効果を背景に、緩やかな回復の兆しも見られましたが、年末にかけて再び急激な感染拡大が発生し、11都府県に2度目の緊急事態宣言が発令されました。今後の経済の先行きには依然として不透明な状況が続くと想定されます。

このような環境のもと、当社は、『人や仲間が集まり続け求められ応え続ける会社』という理念のもと、エネルギー事業及び電子機器事業におきまして積極的な営業展開を行っております。

コロナ禍における当社の営業活動については、当初より見込んでいた感染拡大に伴う電気需要全体の減少は生じているものの、コストの見直しによる経費削減の意識は拡大しており、当第2四半期累計期間の業績に対する影響は軽微でした。

以上の結果、当第2四半期累計期間における当社の業績は、売上高は1,951百万円、営業利益は54百万円、経常利益は57百万円、四半期純利益は36百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(エネルギー事業)

エネルギー事業におきましては、売上を継続的に獲得できる基盤作りを目指して、電子機器事業のノウハウを活かし、中間層を中心とした営業活動の結果、公的機関及び中小企業との契約獲得数を伸ばしております。

また、電気需要全体の減少に伴う市場調達単価の下落の影響等により調達価格を抑制しております。12月中旬からの電力需給の逼迫懸念等に起因した日本卸電力取引所からの調達価格上昇については、当第2四半期の売上原価に影響はあったものの、相対取引の割合を増加させるなどの対策を行っております。

これらの結果、売上高は1,848百万円、営業利益は163百万円となりました。

(電子機器事業)

電子機器事業におきましては、既存顧客のリースアップに伴うリプレイス販売を中心とした営業活動の結果、売上高は102百万円、営業利益は42百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ171百万円増加し、1,632百万円となりました。主な要因は、売掛金が62百万円、日本卸電力取引所の価格高騰に伴う追加の保証金差入により差入保証金が119百万円増加したこと等によるものです。

②負債

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ48百万円減少し、726百万円となりました。主な要因は、買掛金が192百万円増加したものの、未払法人税等が118百万円、長期借入金金が38百万円、流動負債のその他に含まれる未払金が16百万円、未払消費税等が63百万円、預り金が13百万円減少したこと等によるものです。

③純資産

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ219百万円増加し、905百万円となりました。主な要因は、東京証券取引所JASDAQ市場（スタンダード）への上場に伴う公募増資の実施等により資本金が57百万円、資本剰余金が123百万円増加した他、利益剰余金が36百万円増加したこと等によるものです。

④キャッシュフローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は712百万円と前事業年度末と比べ8百万円の減少となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増加（資金の増加）192百万円、税引前四半期純利益57百万円の増加要因がありますが、売上債権の増加（資金の減少）62百万円、差入保証金の増加（資金の減少）119

百万円、法人税等の支払141百万円等の減少要因により資金は152百万円の支出となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等があったため、0百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済38百万円等の減少要因がありますが、東京証券取引所 J A S D A Q 市場（スタンダード）への上場に伴う公募増資の実施等による株式の発行等の増加要因により資金は144百万円の収入となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年7月期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間は堅調に推移しており、2020年10月16日に公表いたしました「東京証券取引所 J A S D A Q への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」から変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業活動への影響及び業績予想への影響につきましては、経済の不確実性に留意する必要は未だあるものの、現時点では軽微であると考えております。他の要因を含め公表すべき事実が発生した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年7月31日)	当第2四半期会計期間 (2021年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	720,813	712,770
売掛金	644,332	706,384
たな卸資産	6,377	6,059
その他	16,556	14,730
貸倒引当金	△2,061	△2,260
流動資産合計	1,386,017	1,437,684
固定資産		
有形固定資産	3,814	3,655
無形固定資産	6,493	5,462
投資その他の資産		
差入保証金	52,412	172,213
その他	18,717	21,809
貸倒引当金	△6,541	△8,674
投資その他の資産合計	64,588	185,347
固定資産合計	74,896	194,466
資産合計	1,460,914	1,632,150
負債の部		
流動負債		
買掛金	221,265	414,154
1年内返済予定の長期借入金	79,324	63,795
未払法人税等	141,425	22,782
賞与引当金	10,438	10,049
その他	224,370	139,980
流動負債合計	676,823	650,761
固定負債		
長期借入金	98,442	75,958
固定負債合計	98,442	75,958
負債合計	775,265	726,719
純資産の部		
株主資本		
資本金	87,250	144,974
資本剰余金	12,600	135,818
利益剰余金	587,726	624,719
自己株式	△1,928	△81
株主資本合計	685,648	905,430
純資産合計	685,648	905,430
負債純資産合計	1,460,914	1,632,150

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自2020年8月1日 至2021年1月31日)
売上高	1,951,443
売上原価	1,563,036
売上総利益	388,407
販売費及び一般管理費	333,642
営業利益	54,765
営業外収益	
受取利息及び配当金	2
助成金収入	3,600
その他	87
営業外収益合計	3,690
営業外費用	
支払利息	1,020
その他	30
営業外費用合計	1,050
経常利益	57,404
税引前四半期純利益	57,404
法人税、住民税及び事業税	21,818
法人税等調整額	△1,406
法人税等合計	20,412
四半期純利益	36,992

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年1月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	57,404
減価償却費	1,508
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,331
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△388
受取利息及び受取配当金	△2
助成金収入	△3,600
支払利息	1,020
売上債権の増減額 (△は増加)	△62,051
たな卸資産の増減額 (△は増加)	317
差入保証金の増減額 (△は増加)	△119,800
仕入債務の増減額 (△は減少)	192,889
その他	△83,197
小計	△13,569
利息及び配当金の受取額	2
助成金の受取額	3,600
利息の支払額	△1,125
法人税等の支払額	△141,425
営業活動によるキャッシュ・フロー	△152,517
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△232
無形固定資産の取得による支出	△70
投資活動によるキャッシュ・フロー	△302
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△38,013
株式の発行による収入	115,449
自己株式の処分による収入	67,421
自己株式の取得による支出	△81
財務活動によるキャッシュ・フロー	144,776
現金及び現金同等物に係る換算差額	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△8,043
現金及び現金同等物の期首残高	720,813
現金及び現金同等物の四半期末残高	712,770

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年10月16日に株式会社東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) へ上場いたしました。

この上場にあたり、2020年10月15日を払込期日とする公募(ブックビルディング方式による募集)による新株式の発行17,800株及び自己株式の処分37,200株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ16,130千円、その他資本剰余金が65,493千円増加、自己株式が1,928千円減少しております。さらに、2020年11月17日に有償第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)による払込を受け、資本金及び資本剰余金がそれぞれ41,594千円増加しております。

この結果、当第2四半期会計期間末において資本金が144,974千円、資本準備金が70,324千円、その他資本剰余金が65,493千円、発行済株式総数が3,059,200株となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算 書計上額(注) 2
	エネルギー事業	電子機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,848,566	102,877	1,951,443	—	1,951,443
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,848,566	102,877	1,951,443	—	1,951,443
セグメント利益	163,489	42,001	205,491	△150,726	54,765

(注) 1. セグメント利益の調整額△150,726千円は、主に本社の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期財務諸表の営業利益と調整を行っております。